

編集後記

敬心・研究ジャーナル第5巻第2号をお届けします。この度初めて編集後記を担当します、阿久津摂と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。今年度より副編集長を務めることになり自身にとって研究とはどのような意味を持つのか、改めて考える機会となりました。自己紹介を兼ねて少しお話しさせていただきます。

私が研究とは何だろうかと突き詰めて考えたのが、大学院生の時でした。私は友人からの紹介で当時の三菱化学生命科学研究所社会生命科学研究室で調査、研究の手伝いをしていました。当時室長であった米本昌平氏から様々な影響を受けたのだと今になって思います。私は米本さんのもとで「日本の遺伝病研究と患者・家族のケアに関する調査」として、ある遺伝病の患者家族の方の生活実態や福祉サービスを調査する研究を5年間行いました。この研究は1990年代のヒトゲノムプロジェクトのさなかの、ヒトの遺伝子研究に伴う社会的、倫理的問題を考えるという命題に沿い行われたものであり、私は医療社会学、生命倫理学の専門の研究者とともに、何がゴールとして見えてくるのか分からぬまま、進んでいました。

米本さんは大学時代学生運動を経験し、その後大学院に進むという正規の研究者のルートではなく、研究者になった方でもあったので、型破りなところもあり、「研究を安易にまとめず、気になることは時間をかけてやれ」と励ましていただきました。そもそも2年くらいで終わるはずの調査が最終的に5年かかったのも、その姿勢でいてくださったからだと思います。とにかく徹底的に患者家族の方の話を聞くようにと、対象となる病気の患者家族の方たちと膝を詰めて話し合ったことを思い出します。

長くなってしましましたが、この経験を通じて研究とは、いったんは完成を目指さなければいけないが、未完なものとして考え続けてよいもの、またふとしたきっかけで戻ってくるものと、私の中では意味づけられています。

さて今回の巻頭論文は「コミュニケーションと心の健康～自尊感情と心的外傷後成長の視点から～」という題で近藤卓先生にご執筆いただきました。先生には先日行われました職業教育研究集会でも「職業に生きる実学としてのコミュニケーション」という題で講演も頂いています。withコロナの社会で、世界中の人々の心にさざ波が立っている今、コミュニケーションとは何か今一度立ち止まって考えることはとても大事な作業だと思います。

今回は原著論文、事例報告、実践報告、研究ノート、合わせて12本の投稿を頂きました。医療・保健・福祉・保育のジャンルにわたったラインアップは敬心・研究ジャーナルのユニークさを示しているものでしょう。今後も研究職や教員という立場の方はもちろん、それ以外の教育の周辺、例えば経営やビジネスの視点をお持ちの方などから、読み手のパラダイムシフトが起こるような問題提起も届けていただければと思います。より活気ある研究発表の場となるように私も尽力してまいります。

副編集委員長 阿久津 摂（日本児童教育専門学校）

本誌校了が目前となった師走、オミクロン株が騒がれ、そしてファクターXの研究がニュース発表される中、編集後記を記しています。

継続するコロナ禍、オンラインを活用したコミュニケーションは既に当たり前になりましたが、安心して人と集まり、場を共にすることで得られること・その重要性を一段と感じ、ファクターXの研究・今後の成果を心待ちにし、期待をしている昨今です。

今号も「日々の研究・執筆でコロナ禍影響を受け…」といった声をお聴きましたが、投稿者各位に加え、発行を支えていただく委員各位の深い知見、見識の広さに支えられ、弊ジャーナルもお蔭様で創刊5年になりました。事務局担当を通して学ぶことも多く、真摯な姿勢で取り組まねばと感じる日々。今後も研究発表の場として、弊ジャーナルをご活用いただけると幸いです。

（編集事務局担当 杉山 真理）

— 「敬心・研究ジャーナル」査読委員一覧（50音順：敬称略）（2021. 12. 1現在） —

阿久津 摂	安部 高太朗	天野 陽介	伊藤 正裕	稻垣 元	井上 修一
今泉 良一	上野 昂志	王 瑞霞	大川井 宏明	大谷 修	大谷 裕子
岡崎 直人	小川 全夫	奥田 久幸	小関 康平	川廷 宗之	菊地 克彦
木下 美聰	近藤 卓	坂野 奨司	佐々木 清子	佐々木 由恵	島津 淳
白川 耕一	白澤 政和	杉野 聖子	鈴木 八重子	高塚 雄介	武井 圭一
東郷 結香	永嶋 昌樹	中西 和子	西村 圭司	橋本 正樹	浜田 智哉
原 葉子	町田 志樹	松永 繁	水引 貴子	南野 奈津子	宮嶋 淳
八城 薫	安岡 高志	行成 裕一郎	吉田 志保	吉田 直哉	渡邊 真理

— 「敬心・研究ジャーナル」学校法人敬心学園 編集委員会（2021. 12. 1現在） —

委員長 川廷 宗之 (職業教育研究開発センター、大妻女子大学名誉教授)
副委員長 阿久津 摂 (日本児童教育専門学校)
委員 小泉 浩一、黒木 豊域、浜田 智哉 (日本福祉教育専門学校)
塩澤 和人、山田 慶 (日本リハビリテーション専門学校)
木下 美聰、天野 陽介 (日本医学柔整鍼灸専門学校)
有本 邦洋 (東京保健医療専門職大学)
水引 貴子 (客員研究員)
事務局 橋口三千代、杉山 真理 (職業教育研究開発センター)

〈執筆者連絡先一覧〉

コミュニケーションと心の健康

—自尊感情と心的外傷後成長の視点から—
日本ウェルネススポーツ大学 教授 近藤 卓
〒300-1622 茨城県北相馬郡利根町布川1377
E-mail : kontaku@tk9.so-net.ne.jp

日本の保育学における「省察的実践家」論の諸解釈

—ドナルド・ショーン理解の混乱—
郡山女子大学短期大学部 安部 高太朗
〒963-8503 福島県郡山市開成3-25-2
E-mail : hkkateiron@gmail.com

職場における技能形成

—特殊訓練を受けたイギリス人熟練労働者の事例を中心に—
学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター(RDIセンター)
橋口 三千代
E-mail : rdi.mhashiguchi@gmail.com

旧優生保護法に係る請求の棄却

—札幌地判2021（令和3）年1月15日への注目—
日本社会事業大学 社会福祉学部 梶原 洋生

マンション集会所で実施した「筋力トレーニング講座」の効果

—ロコモティブシンドローム・サルコペニアに対する影響—
大阪人間科学大学 保健医療学部 理学療法学科 奥 壽郎
E-mail : t-oku@kun.ohs.ac.jp

地域高齢者の身体能力と認知・心理機能との関連性

—特に80歳代と70歳代の比較—
学校法人敬心学園 職業教育研究開発センター 客員研究員
金辻 良果
E-mail : ryouka_kintsuji@yahoo.co.jp

玉置哲淳教授主要文献解題(2)

—集団保育・人権保育論—
大阪府立大学 吉田 直哉
〒599-8531 堺市中区学園町1-1 大阪府立大学地域保健
学域教育福祉学類
E-mail : naoya_liberty@yahoo.co.jp

近藤充夫の幼児運動論における心身発達の統合性

大阪府立大学 吉田 直哉
〒599-8531 堺市中区学園町1-1 大阪府立大学地域保健
学域教育福祉学類
E-mail : naoya_liberty@yahoo.co.jp

脳卒中及び脊椎圧迫骨折等の在宅高齢者に対するプラスステン活動が運動に対する行動変容ステージ及び体成分組成に及ぼす影響

日本赤十字社 水戸赤十字病院 伊藤 絵梨華
E-mail : heath.clover0223@gmail.com

促通を目的とした運動プログラムの有効性

—コロナ禍において専門学校対面授業の実践例—
早稲田大学 非常勤講師 包國 友幸

EPA介護福祉士候補者の介護福祉士国家資格取得に向けた施設内研修

日本福祉教育専門学校 非常勤講師／敬心学園 職業教育研究開発センター 客員研究員 高橋 明美
E-mail : akemi86@hotmail.co.jp

実習におけるF-SOIAP(生活支援記録法)による記録を通じた認識変化の一考察

職業教育研究開発センター 客員研究員／秋田看護福祉大学 看護福祉学部 山田 克宏
E-mail : no2fukusi@gmail.com

心理臨床家の負担となることとセルフケア

あしかがメンタルクリニック／獨協大学非常勤講師
鈴木 健一
E-mail : szk.ken149@gmail.com